

許 可 番 号	E21-0093
研 究 課 題 名	災害時の急性大動脈解離の診断方法に関する研究
診 療 科	循環器内科
研 究 責 任 者	諏訪 哲
資 料 ・ 情 報 の 管 理 責 任 者	諏訪 哲
研究の目的と方法	<p>急性大動脈解離は突然発症し、致死率の高い循環器系の重大な疾患である。その診断及び治療は緊急性を要し、集学的な治療が必要となる。人工心肺を必要とする大掛かりな手術や周術期の集中管理が必須となる。ところが大規模災害時には人的資源、衣料資材、診断機器、施設設備等が損なわれ、被災地での診断約定や治療完遂が困難であることが予測される。極限られた時間で限られた方法で診断し、必要に応じて広域搬送を決定し迅速に決定的治療を受けられるようにすることが求められる。大規模災害時にどれだけ診断に必要な薬剤や検査器機が確保されるかは不透明であり、検査手段の乏しい状況下を想定して診断率を高くする検討が必要である。本研究では急性大動脈解離の診断を確定する為の造影 CT 等の検査を行うことができない状況を想定し、機材等を必要としない病歴聴取や身体所見の確認及び簡易な検査等ていかに診断率を向上させうるかを検討する。</p> <p>対象は救急外来を受診し、突然発症した腹痛、背部痛をはじめとする大動脈解離に鑑別が必要な症例。急性大動脈解離を念頭に置いた病歴聴取、診察による身体所見の確認、非侵襲的で簡易に行える検査、確定診断に必要とされる血液生化学検査や造影 CT による診察、検査等を通常の手順で行う。問診では主訴となる疼痛等を詳細に聴取する。痛みの部位、痛みの性状、疼痛部位の移動、発症状況、発症様式、発症時の行動、特に四肢の大観の進展を伴う行動の有無等を確認する。また、高血圧症や先天性疾患等の既往歴、危険因子の確認を行う。身体所見では胸部聴診所見で心雑音の有無、四肢動脈の蝕知、末梢静脈の阻血の有無、血圧左右差、血管雑音、一過性若しくは持続性の脳血管障害の症状等を確認する。</p> <p>救急外来で行える検査は通常通り行う。心電図で上室性不整脈、ST-T 変化、心臓超音波で左室壁運動、心嚢液貯留、大動脈弁閉鎖不全症の有無、大動脈の拡大及び皮弁の存在を調べる。血液生化学検査では心筋逸脱酵素、重要内臓の虚血を示唆する異常値、D-ダイマー等の凝固系等の検索を行う。胸腹部の CT では、ま</p>

	<p>ず単純 CT にて可能な限り大動脈の情報を収集する。大動脈径の拡大、CT 値の差異による大動脈壁の異常、石灰化の偏在による解離の示唆、解離からの出血を示唆する所見、重要内臓臓器の虚血を示唆する所見等に着眼する。脳血管障害を伴う症状を併発している症例では頭部 CT による脳血流に関する評価を施行する。確定診断で胸部部の造影 CT を撮影し、どれだけの情報で急性大動脈解離と診断したかを其々の項目を集積させて造影 CT による診断との正診率を算出し、造影 CT の撮影による診断が困難な状況での補助的診断法を確立させる。</p>
利用、又は提供する 試料・情報の項目	検査データ、診療記録
研究対象者	研究期間中に救急外来を受診し突然発症した腹痛、背部痛をはじめとする大動脈解離に鑑別が必要な 20 歳以上の患者
研究対象期間	承認日から西暦 2022 年 3 月 31 日の間
利用する者の範囲	■当院のみで実施
	多施設共同研究 研究代表機関名： 代表研究責任者：
個人情報の取扱い について	使用するデータは、個人情報特定されないよう匿名化に十分配慮して扱います。 研究成果が公表される場合にも、患者さんが特定できるような情報が公表されることはありません。
お問い合わせ先	<p>該当する研究の対象となる患者さん（のご家族）で、ご自身の情報を利用しないでほしい等のご要望がございましたら、大変お手数ですが下記のお問い合わせ先までご連絡ください。</p> <p>順天堂大学医学部附属静岡病院 循環器内科 電話：055-948-3111(代表) 研究責任者：諏訪 哲</p>